

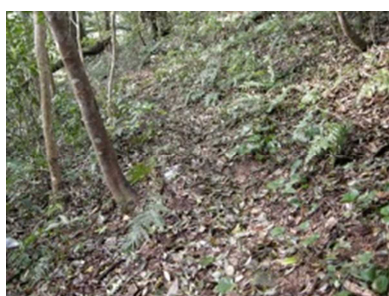
好み

1. 獣の通路

雪の遊歩道は歩きにくいのですが、獣の歩いた跡が一目でわかる新雪の後の好天は狙い目です。打吹山にノウサギは少なく、隣の外道山から来ると考えられます。足跡に特徴があり、すぐわかります。低木の茂る山が少なくなり、見る機会が減りました。写真は、相撲場上の駐車場のものです。雪の白に白いくぼみなので、見難い写真になりました。進行方向は手前から奥です。雪の上には決まった道はありません。



雪上のノウサギ足跡



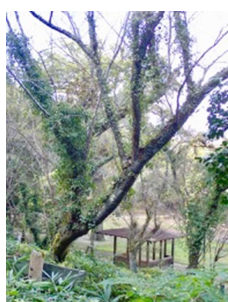
獣道 左上奥から右下前へ

一方で、遊歩道には斜面からきている道がたくさんあります。法面では、土をかいた跡やひづめの跡が残っていてイノシシのものと分かります。落ち葉の積もっている場所でも、踏み付けられて平らにされています。このようなところを定点カメラで撮影した結果、イノシシ以外にタヌキ、アナグマ、ネコ、テンなど多くの獣が利用していることが分かりました。共通の道として利用していることから、歩きやすいところを好むようです。県境近くの道路でノウサギを、もう一度はシカを車で追いかける形になったことがあります。横の藪に逃げればよいものを100m以上も道路を走って逃げました。歩きやすいことが一番のようです。

この獣道を経年的に観察しますと、ずっと同じ場所ではありません。木が大きくなったり、目的地が変わったりしているのでしょう。

2. キヅタ

冬枯れの打吹公園を歩くと幹が青々としたソメイヨシノが目立ちます。キヅタが絡み付いているからです。その目でキヅタの付着している木を探すと、ある傾向が見えてきます。

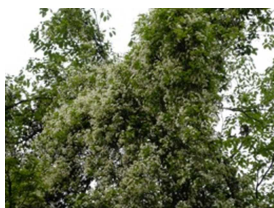
キヅタが付着した
冬のソメイヨシノ

右の表が調査結果ですが、ソメイヨシノが多いのです。植樹した本数が多ければ、偶然に付着する木も多くなるはずですから、本来は割合で示すべきですが、付着に必要な太さなど他の要因もあり、本数で示しました。

打吹山遊歩道の自然林部分の樹木の幹には、全くキヅタが付着していませんでした。打吹山は打吹公園に比べて常緑樹が多く、鬱蒼とした環境となっています。公園の樹木は間隔があり、横から光がさします。また、ソメイヨシノは9月には落葉が始まり、幹に光が届きやすくなります。

キヅタは幹に絡み、樹冠まで上がったたり、宿主を覆いつつしたりすることはありません。冬、日がよく当たれば満足しているのです。同じつる植物のテイカカズラは林床にあるときは開花せず、常緑樹であれ樹冠に達し宿主を覆い乗っ取ると、光を得てたくさんの花をつけます。多くの種の隙間で生きているのがキヅタなのです。

常 緑 樹	スギ	1
	モミ	1
	イヌマキ	1
	ヤブツバキ	6
落 葉 樹	ソメイヨシノ	18
	イロハモミジ	4
	イヌシデ	2
	ナツツバキ	1
	ネム	1

樹木を覆う
テイカカズラ